

地場産品を買ってまちを元気に

みやこんじよ復興まつり

口蹄疫からの復興を目指したみやこんじよ復興まつりが5月19日・20日、都城圏域地場産業振興センターで開催されました。市内の小売店などが軒を連ねた会場には、地場産品がずらり。農畜産物や加工品などを買求める客や、実演販売の炭火焼きなどに舌鼓を打つ客でにぎわいました。また、大道芸やキャラクターショーなども行われ、子どもらは歓声を上げていました。後藤章文さん（宮崎市）は「特産品をPRしてもっと活気付くといいですね」と土産を手笑顔を見せていました。



世紀の天体ショーに期待を込めて

日食眼鏡工作教室

国内では約25年ぶりとなる金環日食を前に5月19日、日食眼鏡工作教室がたちな天文台で開催されました。参加した親子らは箕部たつお樹生台長から眼鏡の作り方の説明を受けた後、熱心に製作。眼鏡が完成すると、早速、親子で太陽を観察していました。濱口真央さん（南小1年）は「太陽を直接見るとはいけないことが分かった」と話していました。金環日食当日の5月21日は、あいにくの曇り空。市内で観察ができた所は一部でしたが、たちな天文台や各小中学校などで観察会が行われました。



親子で楽しくスキンシップ

親と子のスポーツ教室（前期）

5月23日、親と子のスポーツ教室の前期の部の開講式が、早水公園体育文化センターで行われました。運動を通して親子の絆を深めるとともに、親同士の交流を図ろうと開催。参加した33組の未就学児と保護者らは、親子で一緒に体を動かしてボール投げをしたり、マット運動や平均台渡りなどをしたりして汗を流していました。初めて参加した砂坂裕子さん（南横市町）は「始めはだっこをせがんでいましたが、終わる頃には一人でできていました」と子どもの順応性に驚いていました。



右・左・右！ しっかり安全確認

高齢者交通安全競技大会

高齢者の交通事故を防ごうと、高齢者交通安全競技大会（グラウンドゴルフ大会）が5月24日、高城運動公園多目的広場で開催されました。今年で3回目を迎えた同大会には、市内の高齢者約280人が参加。コース内に設けられた横断歩道で安全確認をしながら腕前を競い合った後、交通指導員による交通安全教室が行われました。田中辰範さん（高崎町東霧島たらの）は「運転マナーの悪い人が多いので、道路を渡るときは気を付けた」と交通安全意識を新たにしていました。



島津の教えて切磋琢磨

郷中教育体験講座

鹿兒島藩の郷中教育を学ぶ講座が始まり5月27日、都城島津邸で開講式が行われました。主催した都城歴史と文化のまちづくり会議の田代理事長が「島津の教えを楽しく学び、立派な人に育ってください」とあいさつ。参加した23人の小学生らは早速、自顕流の剣術に挑み、大きな声を発しながら打ち込み稽古を行うなどして伝統的教えに触れていました。指導役の久野康之さん（郡元町）は「この機会に、我が子と一緒に武道を学べたらうれしいです」と親子の師弟関係を楽しみにしていました。



笑顔あふれる朝ごはん

おはようめざまし朝ごはん

新入生同士の親睦や地域との交流を深める「おはようめざまし朝ごはん」が5月27日、南九州大学周辺で行われました。学生と一緒に学校周辺を清掃した後、食事を共にして交流を深めようと地域応援団「かたらん花」が企画。学生など約40人が参加し、道路脇の植え込みなどに落ちている空き缶などを拾い集めた後、朝ごはんを食べながら親睦を深めていました。高橋直宏さん（1年）は「いつも食事を作りますが、掃除をした後のご飯は特別に美味しい」と手作りの味に満足していました。



豊作を願う古式ゆかしく田植え

お田植え祭

豊作を願うお田植え祭が6月2日、東霧島神社（高崎町）で古式ゆかしく行われました。地元高崎小学校の児童21人が参加して、昔ながらの田植えを再現。早乙女役の女子はかすりの着物にたすき掛け、男子は法被姿で登場しましたが、あいにくの雨の中、かっぱを着て境内の水田に入りました。児童らは、豊作を願う俵踊りの曲が流れる中、古代米の苗を一株ずつ丁寧に植えていました。有村歩華さん（6年）は「泥の感触が気持ち悪かったけど、慣れると楽しかった」と話していました。



泥んこ姿でハッスル

高崎町どろんこバレーボール祭

五穀豊穡と地域の活性化を目的とした高崎町どろんこバレーボール祭が6月3日、高崎小学校南側の水田で行われました。今年で20回目を迎える同祭に市内外から45チーム約280人が参加。趣向を凝らした衣装に身を包んだ選手らは、泥に足を取られながらもボールを追い掛け、全身泥まみれになりながらプレーを楽しんでいました。どろんこバレーが縁で友達になった仲間と参加した田中こころさん（平江町）は「20代最後の思い出に思いっきり飛び込みます」と意気込みを話していました。





夢はプロ棋士！

ゆうとくほんいんぼう
第61回祐徳本因坊戦
小学生の部で優勝した
別府 拓朗 君



佐 賀県鹿島市で6月に開催された第61回祐徳本因坊戦。この西日本最大の囲碁大会小学生の部で、別府拓朗君（大王小5年）が見事、優勝の偉業を成し遂げました。

九州・山口・沖縄の各県代表10人で競うこの大会で、宮崎県代表として出場した別府君。攻撃が持ち味の別府君は「守りが得意な相手もいて、勝つのに苦労した」と決勝を含む5戦を振り返ります。

別府君が囲碁と出会ったのは、小学1年生の夏休み。当時、囲碁

は父親とゲームで楽しむ程度でしたが、友だちに誘われて市内の囲碁教室を訪れたことをきっかけに、週1回の囲碁教室と自宅での専門書やインターネットを利用した練習を重ね、腕を磨いてきました。

現在では、英語教室やその他の習い事もやめて囲碁に集中する別府君。そんな多忙な毎日の中で楽しい時間は「学校の昼休みに友だちと遊ぶこと」と、子どもらしい一面もぞかれます。

6段格の相手と対局するまでに腕を上げた現在は、対戦相手を求めて、週末に市内の碁会所にも通っています。そこでは、都城弁を交えた会話や親しみやすさで、先輩棋士からは子どもや孫のようにかわいがられています。

母親の貴子さんは、「上達することができたり、これまで頑張っていたりしたのも、囲碁教室の先生の指導や囲碁で接する人たちに恵まれたことと、教室などに送迎してくれる家族の協力があったること」と戒めます。

将来の夢は、日本を代表するプロ棋士になることと話す別府君。「もっと強くなって、囲碁教室の先生や練習相手になってくれた人たちにうれしい報告をしたい」と目を輝かせていました。

環霧島探訪

— かんきりしまたんぼう —

Vol.3

今月は、高原町にある神武天皇誕生の地「皇子原」を紹介します。
 ◎問い合わせ 高原町まちづくり推進課 ☎0984-4212111

産場石

皇 子原は、初代天皇である神武天皇の誕生の地といわれています。それを示すかのように皇子原神社には産場石といわれる二つの石が残っています。

霧島山の幾度の噴火により、付近の岩石は消滅したり、その色が変わったりしましたが、産場石だけは少しも変わらなかつたと伝えられています。

また、この石の表面をなでると安産になるともいわれています。



▲皇子原神社に残る産場石



▲皇子滝

神武天皇思ひ出の地 皇子原

高 千穂峰に降臨した神「ニニギノミコト」のひ孫に当たるのが神武天皇といわれています。

皇子原には神武天皇が幼少期に遊んだといわれる「皇子滝」や「皇子河原」などの神武天皇ゆかりの場所が残っています。

これらの場所は神秘的な雰囲気漂わせ、現代の私たちがいにしえのロマンにいざないます。「古事記」によると成人した神武天皇は、大和の国を平定するために日向から船で東に向かったとされています。皇子原は、神武天皇にとって幼少期を過ごした思ひ出の地であったのかもしれませんが。

盆地生まれの
元気をいただきます

冷やしナスの南蛮漬け

ナスの南蛮漬け

※1人分77キロカロリー、塩分0.7g



●材料 (4人分)

ナス…2本 (240g) 揚げ油…適量

ショウガ…少々

(A) 酢…大さじ2 濃い口しょうゆ…大さじ1

砂糖…大さじ1

●下準備 ナス…皮をとるところところむき好みの大きさに切り、水にさらしてあく抜きをする
 ショウガ…千切りにし、水にさらす

●作り方 ①ナスを油でさっと揚げる
 ②①が熱いうちに (A) に漬け込む
 ③皿に盛り、水気を切ったショウガを散らす



ナ

ナスは、9割以上が水分で食物繊維やカリウムを多く含む食品です。油との相性がとてもよく、油を吸っても淡泊な味わいなので、夏バテ防止に最適です。

ワン! ポイント

油との相性の良いナス。漬物にするときには、古釘やミョウバンを入れると色鮮やかになります。

◎問い合わせ

健康課 ☎23-2765